

# 「わかる」授業づくり を目指して(2)



## — 「読む力」をつけるための日々の取り組み —

井上 志帆 Inoue Shiho (福岡県川崎町立池尻中学校)

### ① はじめに

前回、「わかる」授業づくりをめざして日常的に行っている、いくつかの実践を紹介しました。それらは完結している取り組みではなく、現在も継続しているものばかりです。そこで、今回も前回に引き続き、授業や家庭学習で取り組んでいることについてご紹介したいと思います。

今回取り上げるのは、英語学習の中でも重要な「読む力」をつけるための実践例です。

### ② 読ませるための準備

いきなり長文を読む課題を出すと、生徒はその量に圧倒され、取り組む前にやる気を失ってしまいます。生徒のやる気を引き出し、学習に取り組ませるためには、英語学習に対する動機づけをし、その基礎となる語彙力や文法力をしっかりとつけることが重要になります。

#### ① 英語を「読みたい」と思わせる

生徒を学習に前向きに取り組ませるには、英語を学習することが現在の日常生活の中で、または将来の自分の仕事や生活の中で役に立つという実感を持たせることが大切だと、生徒の発言を聞いてよく考えさせられます。現在はネイティブスピーカーにALTとして授業に入ってもらえるので、昔に比べて外国の人との交流が多くできるようになりました。それでも生徒は英語を身近に感じたり、自分たちの生活に英語が必要だと実感したりすることはなかなかないようです。すぐに実用性を感じなくてもよい、学ぶこと自体が大切だと、私は思いますが、学習する動機を高めるためには、英語が役に立つという実感をもたせることが必要なことも確かです。

そのためには、英語を読むことで何かがわかった、とか、何かを知り得たという経験を積ませることが

大事だと思っています。英語の歌の歌詞や読み物教材には、短くても興味深い内容がたくさんつまっているのです。そういった文章に向き合わせることで、生徒の興味・関心を引き出し、「もっと自分で読んでみたい」という気持ちにさせることが重要です。

#### ② 語彙力をつける

語彙力は、たくさんの英語を読んで理解していく上で、欠かせない大変重要な力です。もちろん読むときだけでなく、何かを表現する(書く・話す)ときにも語彙は必要なので、しっかりと力をつけておかなければいけません。しかし、ただ語彙力をつけることだけをめざすのは、生徒にとって難題です。どんな学習でも同じですが、語彙力をつけるには時間がかかるので、継続してやり抜く力が必要だからです。また、確実に語彙を定着させるにはくり返して学習することが必要なので、授業中の学習以外にも家庭学習が欠かせません。その点で、家庭学習の習慣がない生徒にとっては、何もフォローがないと語彙学習はさらに難しいものになってしまいます。

そこで私は「英単語練習プリント」を作成し、宿題として出しています。これは、15個程度の単語の意味を調べて書き、つづりを4回ずつ書いて練習するものです。

[2年生の英単語練習プリントの例(一部)]

① building ( )
_____
_____
② find ( )
_____
_____
③ project ( )
_____
_____

これは毎日ではなく、授業の進度によって、また、ほかの宿題との兼ね合いを考慮して出します。そこからさらに練習するかどうかは、生徒の自主性に任せ

ています。そうすることで生徒が進んで家庭学習をする習慣をつけることをめざしています。

そのほか、適宜、テストをするなどして、単語を書く宿題のみで終わらせないようにすることが、より確実に語彙力をつけることにつながっているようです。

また、単語はただ単独で覚えるよりも、英文の中で「意味があるもの」として覚える方がより効果的に覚えられるのではないかと考え、各課で出てくる重要文の中で単語を覚えさせるという取り組みも行っています。たとえば、各ページに出てくる重要文の確認テストを適宜行うことで、重要文と単語を同時に覚えることになります。

これらの取り組みについては、生徒が書かされている、やらされているという意識を持たず、前向きに取り組むようにし向けることが教師側の課題です。

### ③「表現学習プリント」の活用

語彙と併せて身につけなければいけないのが文法です。新出文法項目が出てきたとき、それを「表現学習プリント」としてまとめています。理解をより確実にする助けとして、また生徒が自分で学習するときの見直しができる資料として重要な文法項目をまとめておく有効です。場合によっては予習プリントとして作成し、活用することもできます。



表現学習プリントの例

### ④ 英文の並べかえ問題に取り組む

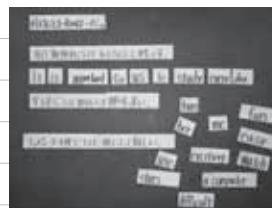
英文を理解するのもっとも大切なのは「語順を理解すること」です。せっかく語彙力がついたとしても、基本的な語順を理解しないと英文の意味をとるのは難しくなります。日本語と大きく違う、生徒がつまづきやすいところなので、ここはしっか

りと押さえておきたいと思います。

語順を身につける練習として、英単語を並べかえて文を作る練習は有効だと感じます。生徒にとっても、単語というヒントがある並べかえ問題はとっつきやすいと感じるようです。〈It ~ to ...〉構文など、複雑で長くなる文は、特にくり返し取り組ませるとよい練習になります。

並べかえの1つのやり方としては、いくつかの単語をカードにして黒板に貼れるようにし、それを日本語に合わせて並べかえて、正しい文を作らせます。代表者に前に出てきてもらって、黒板に自分が思うように並べかえてもらうのですが、その生徒はもちろん、見ているほかの生徒も、頭の中で並べかえる練習をしているようです。間違ってもいいし、むしろ一度で正しい文にならない方が、生徒がお互いに間違いを訂正し合えて、理解が深められるように思います。生徒は間違えることを嫌がりますが、並べかえ練習だとゲーム感覚でできるようで、間違いことへの抵抗が少なくなるようです。毎回だと飽きてしまうかもしれませんが、たまにはこういったやり方も取り入れると新鮮でよいと思います。

もちろん、プリントや問題集を利用して並べかえの練習を行ったりもしています。これらは英語を理解するだけでなく、その後の英文文にもつながるよい練習になっていると思います。並べかえ単語カードの使用例



## 3. 長文読解に慣れる

英語に向き合う動機を高め、語彙力・文法力を高める取り組みをしながら、読みの活動に入ります。しかし、いきなりではなく徐々に慣れさせていくことで、生徒の心理的負担を下げるのが大切です。

### ① ミニ英文読解に取り組む

日本語の読解力の低下が指摘されていることにも通じるように思いますが、生徒が苦手とする長文読解を克服させるには、英文を読むことに慣れさせることが必要だと考えています。そのために「ミニ英文読解」の練習を授業に取り入れるようにしています。英語が苦手な生徒は、長文を見るだけでアレル

ギ一反応のように嫌気を感じるようなので、毎時間は無理でも、短時間で取り組める英文読解を継続して行うことを始めました。

3分程度で、40語程度の英文を読んで問題に答えさせ、そのあとに答え合わせをしていきます。まずは慣れることを目的にしているので、今のところは自己採点ですが、この取り組みが生徒に定着したところに、評価を行う予定です。現在は1週間に一度、授業の最初にこの活動を行っていますが、短時間で行うこと、英文が長くないということで、生徒も嫌気を感じず取り組むことができているようです。

これらは高校入学試験に必ず出題される長文読解の対策になる、とも考えていますが、それだけではなく、英文を読むことに慣れることで、自力で英文を読んでその話の内容を理解していくことに少しでも楽しさを感じてくれると嬉しいと思っています。

#### ② 教科書本文を活用する

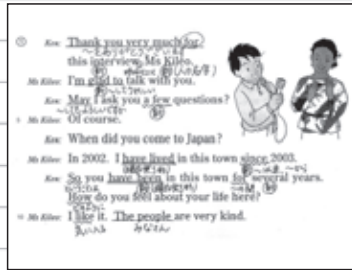
「読む力」をアップさせるため、予習として教科書を読ませ、意味をつかんでくることを宿題として出しています。具体的にはノートに教科書の本文(英文)を写し、本文の意味をできる限り自分で考えさせます。

音声のイントロダクションや、教師とのインタラクティブの中で考えるのではなく、自分で文を読みながら意味をとっていくという作業は、大いに読みの練習になります。また、これは英文の内容理解に挑戦するというだけでなく、家庭学習の機会にすることも目的にしています。

どの程度意味を考えてくるかには個人差がありますが、それは生徒に任せています。そして予習を宿題に出したときは、授業の始めにノート点検を行うなどして、取り組んだ内容に関して声をかけて評価するようにしています。

また、意味を考える上での助けになるように、ヒントを記述したプリントを配布することもあります。生徒には「間違ってもいいから自分で意味を書いてみるのが大切だ」とくり返し言って、うまく訳せなくてもよいので、まずは挑戦してみたいことを伝えるようにしています。なかなか徹底するのは大変ですが、教師側が根気強く取り組んでいこうにしたいと思っています。

この宿題を継続することで、予習をしてくことに慣れ、自分から先のほうの内容までノートを書いてく



ヒントのプリントの例  
(NEW CROWN 3 L 2 ①)

る生徒も出てくるようになりました。多くの高校の授業では予習が当たり前で、また英文の量も中学校の教科書とは比べものにならないほど増えます。予習に慣れておけば、高校生になって急にともたどうこともなくなるのではないかと思います。

#### 4. おわりに

英語の長文を読むことは、なかなか手強いことです。英語が苦手な生徒の中には、英語の文の固まりを見ただけで読む気を失う生徒もいます。しかし、入試のことを考えても、英語のおもしろさを実感させるためにも、「読む力」はつけておかなければなりません。そしてまさに長文を読むときに助けになるのが、語彙力や文法力です。すべての単語とはいわなくても、単語の意味がある程度わかれば、読んでもみようかという気になり、それぞれの単語の意味を組み合わせて、自分なりにでも何とか文の意味をとらえようとすることができます。また文法、特に英文の語順が定着していると、より正確に文の意味をとらえることができます。しかし、これらの力は一朝一夕にはつきません。だからこそ、日常的に語彙力をつける取り組みや、文法の定着をはかる取り組みが重要です。授業の中では並べかえの問題も取り入れています。英文の意味を確認するときは、その文の主語と動詞がどれかを生徒に考えさせるようにしています。これらをくり返し行うことが文の構造を理解し、日本語と違う語順を定着させることにもつながると思っています。教師側はこのことを再認識し、継続した取り組みを行っていかなければならないと思います。